

中学校区におけるめざす子ども像

- ・正義のひと 善悪の判断ができる
- ・勇気のひと チャレンジできる
- ・行動のひと 自ら進んで動ける
- ・連帯のひと 他者の意見を聴き、他者と協働できる

令和8年度 重点目標

多様なかかわりを通して、深く学ぶ

～それぞれの“もちあじ”をいかし、つながる、つなげる～

確かな学びの現状
R5年度より、「問いを持つ力」「情報を集める力」「整理・分析する力」「まとめ・表現する力」の4つの情報活用能力の育成をめざした授業づくりに取り組んできた。全教職員が一人一回の公開授業を行い、授業改善を進めてきた。R7年度は、各教科における情報の特性を踏まえ、児童が場面に応じて情報活用能力を発揮できるよう、授業者が4つの情報活用能力を意識した授業実践を行った。R8年度は、研修主題を「9年間をつながり育てる思いやり～自己を見つめ、他者とのかかわりを深めること」の育成～と設定し、これまで3年間培ってきた情報活用能力の視点を道徳科の授業にも活用する。また、基礎的学力の定着を図るため、自主学習の取組と検定テストを継続して行う。自主学習では、「基礎的学力の定着」と「情報活用能力の育成」の二つの視点を意識する。検定テストでは、各学年の算数科「数と計算」領域の習熟を図り、年度末に実施して計算力の定着状況を把握する。

豊かな心・健やかな体の現状
食育の取り組みや、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は1～9年生合同で行い、7～9年生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上をめざしながら1～9年生の「たてわり競技」を通して様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、1～9年生のたてわり活動である「さつき野トーク」を中心として異学年交流を充実させ、相手とつながり、関わることを通して自他のよさを認める機会を設定している。このように、小中一貫校の特徴を活かし、児童の豊かな心や健やかな体が育まれるように、活動の工夫をしている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、教科の見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、教科の見方・考え方を意識した授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末			
			特別の教科「道徳」や他の教科の授業において、他者と意見を交換し、議論し相手について考え、認め合うような授業にする。	児童の肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末			
	基礎的学力	小学校6年間の各学年で、「数と計算」領域の検定テストを行い、四則計算の力を高める。	自主学習ノートで自分に合った学び方で取り組む	児童の肯定評価90パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末			
			検定テストで、習熟をはかる。	検定テストの正答率90パーセント以上	検定テスト	年度末			
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	「あいログ」を1年間通して活用し、相手意識が高まったか。	相手意識にかかわる項目で、児童の肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			
			1～9年生のたてわり「さつき野トーク」を中心とした異学年交流を充実させ、自他のよさを認め合うことができるようにする。また、9年生は達成感や自己有用感を得られたか。	「さつき野トーク」についての項目で児童の肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			
			毎学期いじめアンケートを実施し、気になる児童に教育相談を行い対応する。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業に加え、学校全体の取組である体育行事や、外遊びなどを通して、運動が苦手な児童にも配慮しながら運動への意欲を高める。	「運動」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	2学期末			
			給食を通して食育を充実させ、児童が自らの健康について考える力を育成するとともに、好き嫌いをなく食べることを目標に食への興味関心が高まる取り組みを実施する。	「食」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	2学期末			
	地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の活動を、地域の人間と連携して、子どもたちの9年間の成長に寄与する。	年間カリキュラムに「むかしあそび」などの地域と連携する項目を意図的に設定し、多様な他者とのかかわりを増やす。	親や教師以外の大人が自分と関わることにより、自分のためになったかの項目で、肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末		
学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。			●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--